

＜三重県＞（種別：学校）三重県立水産高等学校

推薦理由

今年、創立120周年を迎える県内唯一の水産に関する専門高校で、海洋・機関科と水産資源科を設置する歴史と伝統のある高等学校である。古くから水産業（漁業、養殖業、海女漁等）が盛んな志摩半島に位置しており、地域で活躍する人材を育成することを目的に設立された学校である。3年間の本科課程に加えて2年間の専攻科課程も設置し、地域の基幹産業である水産業の発展に寄与するとともに、卒業生は全国の港湾や内航船・外航船の航海士、機関士等として活躍している。「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」という教育目標のもと、地域や大学等と連携して実践的な教育に取り組んでいる。

1. 各学年での取組

高等学校の共通教科のほか、水産の専門的な学習を1年生では週8～10時間、2～3年生は週12～17時間（各科・コースによって異なる）実施している。

（1）1年生の取組

共通科目公民科の「公共」では、志摩市議会を傍聴するなど地域が抱える課題を調査し、令和3年度（科目「現代社会」で実施）には「磯焼けによる漁獲量の減少」「空き家問題」「地域公共交通」といった課題の解決に向け、大学教授等専門家の助言を得ながらグループで解決策を協議した。年度末には具体的な改善策を志摩市長に提案（プレゼン）し、その結果、路線バスにUSB充電端子が設置されることとなった。

（2）2年生の取組

学校設定科目「アクアデザイン」において、令和3年度には姉妹校であるパラオ共和国高等学校とオンラインで意見交流を行った。水産資源科の生徒がパラオと日本の歴史、パラオオウムガイの生態、日本とパラオの文化や海洋環境について意見交換を行い、お互いの文化や環境の違いについて理解を深めた。また、令和3年3月末で休館した志摩マリンランド（水族館）から飼育されていた国の天然記念物「ネコギギ」を譲り受け、水産資源科の生徒が生態の研究を行うとともに種の保存に取り組んでいる。

（3）3年生の取組

専門科目の「課題研究」において、各科・各コースで学んだ知識と技術を活用して持続可能な地域づくりに貢献するための取組を行っている。

- ・海洋・機関科の海洋コースでは、志摩市からの依頼を受けスクーバダイビングの技術を活用して、安心して海水浴を楽しめるよう海水浴場等でガンガゼ（ウニの一種）の駆除を行っている。また、アワビの稚貝の放流やその後の定着についての調査研究も志摩市と連携して行っている。

- ・海洋・機関科の機関コースでは、昨年度、溶接などの金属加工の技術を活用して生徒がガンガゼ駆除のための磯ミノを開発し、地元の海女さんに提供した。本年度は、生徒が行った磯ミノの使用についての聞き取りをもとに軽量化などの改善を行い、より多くの方々に使ってもらうため地元の漁業関係者へ配付した。

- ・海洋・機関科の水産工学コースでは、東京海洋大学、企業、志摩市と産官学連携を行い、ROV（水中ドローン）を活用した海洋環境のモニタリングやガンガゼ駆除について実証事業を実施している。

- ・水産資源科のアクアフードコースでは、地元のマグロ養殖業者や漁協と連携し、マグロの廃棄部位（心臓や肺等）を活用した商品（缶詰）開発を行っている。

- ・水産資源科のアクアデザインコースでは、三重大学や漁協と連携し、漁獲量が激減しているクロアワビの養殖やマナモコの増殖に向けた調査研究を行っている。また、地域の方から真珠養殖の知識と技術を学ぶとともに、生徒が講師となり地元の中学生に対して出前授業等を行っている。令和3年度には、志摩市や真珠についてのPRイベント「パールズコレクション2022OSAKA」の開催に大阪夕陽丘短期大学と協力して取り組んだ。

2. 取組の成果

地域の課題について考え、水産の専門的な学びを活用して課題解決に向け主体的に取り組むことにより、当該校が目指す「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を持った生徒の育成が推進されている。

また、パラオの高校生との交流や大学教授、関係企業との取組を通じて、身近な地域だけでなく世界の海洋環境や水産業についての関心も高まり、学んだ知識と技術を活用することで課題解決につながるという実感につながっている。生徒アンケートでは「自分という存在を大切に思えますか」という問いに対して、前年度61.7%から71.0%に上昇し、生徒の自己肯定感が高まったといえる。

今後も、地元漁業関係者や地域、大学や自治体と連携し、生徒が主体的に地域の課題や水産業の課題について取り組み、社会に貢献できる人材の育成を進めていく。

【ホームページ】 <http://www.mie-c.ed.jp/hsuisa/>